

『この方に目を向けよ』ヨハネ19:1-16

19:1 そこでピラトは、イエスを捕え、むちで打たせた。

19:2 兵卒たちは、いばらで冠をあんで、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せ、

19:3 それから、その前に進み出て、「ユダヤ人の王、ばんざい」と言った。そして平手でイエスを打ちつつけた。

19:4 するとピラトは、また出て行ってユダヤ人たちに言った、「見よ、わたしはこの人をあなたがたの前に引き出すが、それはこの人になんの罪も見いだせないことを、あなたがたに知ってもらうためである」。

19:5 イエスはいばらの冠をかぶり、紫の上着を着たままで外へ出られると、ピラトは彼らに言った、「見よ、この人だ」。

19:6 祭司長たちや下役どもはイエスを見ると、叫んで「十字架につけよ、十字架につけよ」と言った。ピラトは彼らに言った、「あなたがたが、この人を引き取って十字架につけるがよい。わたしは、彼にはなんの罪も見いだせない」。

19:7 ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」。

19:8 ピラトがこの言葉を聞いたとき、ますますおそれ、

19:9 もう一度官邸にはいってイエスに言った、「あなたは、もともと、どこからきたのか」。しかし、イエスはなんの答もなさらなかった。

19:10 そこでピラトは言った、「何も答えないのか。わたしには、あなたを許す権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのか」。

19:11 イエスは答えられた、「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きい」。

19:12 これを聞いて、ピラトはイエスを許そうと努めた。しかしユダヤ人たちが叫んで言った、「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王とするものはすべて、カイザルにそむく者です」。

19:13 ピラトはこれらの言葉を聞いて、イエスを外へ引き出して行き、敷石（ヘブル語ではガバタ）という場所で裁判の席についた。

19:14 その日は過越の準備の日であって、時は昼の十二時ころであった。ピラトはユダヤ人らに言った、「見よ、これがあなたがたの王だ」。

19:15 すると彼らは叫んだ、「殺せ、殺せ、彼を十字架につけよ」。ピラトは彼らに言った、「あなたがたの王を、わたしが十字架につけるのか」。祭司長たちは答えた、「わたしたちには、カイザル以外に王はありません」。

19:16 そこでピラトは、十字架につけさせるために、イエスを彼らに引き渡した。彼らはイエスを引き取った。

●序論

先週の18章最後から、今日お読みしたところを、のちにペテロがユダヤ人たちに向けて簡潔に語っているところがあります。

使徒行伝3:13-15 …あなたがたは、このイエスを引き渡し、ピラトがゆるすこ

とに決めていたのに、それを彼の面前で拒んだ。あなたがたは、この聖なる正しいかたを拒んで、人殺しの男をゆるすように要求し、いのちの君を殺してしまった。

その時、決め手となったのは、ある人々の圧倒的な「声」でした。ピラトがゆるそうとしたけれども、それをはっきり拒絶した…。その結果、いのちの君イエス・キリストは十字架で「殺してしまった」という、とても強烈な表現をとっています。

「大きな声が人を殺す」。大げさかもしれませんが、ある言葉や声の影響力は、今もいろいろなところで人や世の中を翻弄するようなことがあります。

そんな今のわたしたちにも語られる大切な言葉。それは「この人を見よ」です。聖書をとおして、まっすぐに、わたしたちのために十字架の受難の道を歩まれたイエスさまに目を向けて、その御言葉に耳を傾けることです。

…この言葉を聞くことで、わたしたちは命を得るからだ聖書は語るのです。

ヨハネ20:31 しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

●本論

I. 声に翻弄されるピラト

彼は、総督として忠実に職務を全うしようとした人であったようです。

ヨハネによる福音書は3回も、ピラトによるイエスさまについての発言を記録します。

18:38 …「わたしには、この人になんの罪も見いだせない。」

19:14…「それはこの人になんの罪も見いだせないことを、あなたがたに知ってもらうため…」

19:6 …「わたしは、彼にはなんの罪も見いだせない」。

だから 12 …ピラトはイエスを許そうと努めた、…というのです。

ピラトは、イエスさまが、間違いなく罪のないお方であったことの証言しています。そしてそれにもかかわらず十字架刑に処せられたということがはっきりします。。

この出来事が、どれほどゆがんだことであったか、その理不尽さに、イエスを十字架につけた「罪」というものの重さがはっきりと示されるのです。

それこそ周囲の声でした。

ユダヤ人の指導者たちは、ピラトの言葉をはねのけて、「十字架につけろ」と激しく叫び続け、さらに「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。」と脅し始めます（12節）。

結果、その声に流されたのが、ピラトでした。ローマ総督としての地位、政治的な

立場、保身、評判…。ピラトは、イエスさまが罪のない方と分かっているながら、群衆の声、世間の声、政治的圧力に屈してしまったのです。

大きな声に取り囲まれているようなとき、私たちも、こういうことにならないか、もしかしたらこれから問われるかもしれません。

Ⅱ. まっすぐ立つイエスさま

官邸の外では、イエスを十字架につけろ！と息巻く祭司長・律法学者とユダヤ人たち。官邸の内では、イエスさまを辱める兵卒たち。

ピラトの目にその両方とも異常なありさまに映ったことでしょう。

19:9 もう一度官邸には行ってイエスに言った、「あなたは、もともと、どこからきたのか」。しかし、イエスはなんの答もなさらなかった。

それは第一に神の御心に従い、沈黙の中で御心の道を受け入れるそんな姿でした。

そのことがわからないピラトは、イエスさまに対して自分の権威を主張します。

19:10 そこでピラトは言った、「何も答えないのか。わたしには、あなたを許す権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのか」。

それに対してイエスさまは「上から与えられていなければ、あなたには私に対して何の権威もない」とはっきりと答えます。

つまり、ローマの総督であろうと、大祭司であろうと、わたしに対しては何の権限もない。ただ神様だけが、わたしをどうするのかお決めになることが出来るのだということです。

これが、主イエスが十字架に架けられた本当の理由なのです。「神様がお決めになった」のです。神様がお決めになったことに、主イエスは従っておられるのです。

イエスさまが黙っていた姿は、イザヤ書で預言されていました。

イザヤ53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。

ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

この沈黙は無意味なものではなく、既に与えられているイエスさまの言葉を思いめぐらし、また信じる者なるための時でもあるのです。

Ⅲ. 「この人を見よ」が響く

ピラトは、鞭打たれ、茨の冠をかぶせられたイエスを群衆の前に立たせ、こう言いました。

「見よ、この人だ。」

現実にその場所で、ピラトの口から発せられた言葉でした。

しかし、今、わたしたちは聖霊さまの助けと促しをいただき、この書を読む中で自分自身が問われるようになっているのです。

あなたは、このイエスさまに何を見ていますか？ どう見るみていますか？ この方を信じていますか？…と。

先ほどさんびした「この人を見よ」という賛美もまた、をわたしたちへの霊的な語り掛けとなっています。

3. すべてのものを 与えし 末 死のほか何も報いられて 十字架の上に あげられつ
つ 敵を赦しし この人を見よ

4. この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なれ

ヘブル人への手紙の中にも、やはりこの人を見上げて歩むことのチャレンジがあります。

ヘブル12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。

信仰は、見つめる対象によって揺れ動きます。 だからイエスさまから目を離さないことが大切です。

イエスを見上げているとき、私たちの心は主の平安をいただいて歩むことができます。

●おわりに

ピラトは、外ではユダヤ人たち、うちにいるイエスさま、その双方の言葉を「聞く」ことにつとめ、その言葉によって右往左往しているのです。

ピラトは群衆の声に翻弄され、イエスは神の声に従い抜きました。

今も、「この方を見よ」という呼びかけは、恥を負われたイエスさまを指し示します。

イエスさまを非難するような人にも（迫害者にも）、また信仰と距離を置き、イエスさまに無関心を装う人にも、また、信仰者と言われるわたしたちも、聞くべき言葉なのです。

私たちのまわりにも、さまざまな声があります。流行、世論、世の価値観、脅し、誘惑、SNSの情報…。

ただどんなときもイエスさまの言葉に聞き従い、イエスの姿に倣う者となりましょう。

そこにいのちがあるのです。

20:31 しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。